

ソーシャル・ファイナンスの概要について

令和元年6月

あなたに、ベスト・ウェイ。



当社の概要および社会的な取り組み

NEXCO

- 平成17年10月1日に日本道路公団の分割・民営化に伴い設立された全額政府出資の株式会社
- 高速道路事業を通じて地域社会の発展と暮らしの向上を支えることを目的とする

商号	東日本高速道路株式会社（ブランドネーム：NEXCO(ネクスコ)東日本) East Nippon Expressway Company Limited
目的	高速道路の新設、改築、維持、修繕その他の管理を効率的に行うこと等により、道路交通の円滑化を図り、もって国民経済の健全な発展と国民生活の向上に寄与すること（高速道路株式会社法第1条）
設立年月日	平成17年10月1日
資本金	525億円（全額政府出資）

- 高速道路事業を活かした社会貢献活動に取り組み、「地域をつなぎ、地域とつながる」を実現

地域活性化

✓ 地域を支え、地域とともに成長する

地域の活性化を目指して、高速道路のネットワーク化による物流の効率化や、地域の産業の振興・雇用の拡大に取り組んでいます



東京外環自動車道(大泉JCT)建設現場

災害対策

✓ 万が一に備える。復興を支援する

災害に強い道路への進化、迅速な復旧手段の確保、そして被災地の復興支援は当社の大切な役割です



東日本大震災で被災した高速道路(常盤道)

交通安全の推進

✓ 道路の安全と、地域の安全を目指す

24時間・365日、安全・安心・快適・便利な高速道路サービスを提供するために、さまざまな取り組みや、交通安全の啓発活動を行っています



高速道路本線への合流部の逆走対策

環境保全

✓ 環境を守り、未来へつなげる

地域の自然環境に優しい道づくりを進めています。また、事業活動によって生じるCo2の削減、再生可能エネルギーの活用に取り組んでいます



のり面への植樹

ソーシャル・ファイナンス・フレームワークの概要

NEXCO

- 当社は、ICMA（国際資本市場協会）が定めるソーシャルボンド原則の4つの核となる要素(下記1～4)を考慮し、以下のとおりソーシャル・ファイナンス・フレームワークを策定。本フレームワークの透明性を確保するために、第三者評価機関であるR&Iから外部評価を取得
- ソーシャル・ファイナンスとは、社会的課題を解決する事業に充当することを目的とした資金調達手段

1 調達資金の使途

- ソーシャル・ファイナンスで調達した資金は、以下のプロジェクトに充当

適格プロジェクト	プロジェクト概要
高速道路の新設・改築	<ul style="list-style-type: none">● 地方圏の産業・観光投資を誘発する都市・地域づくりの推進・管内高速道路ネットワーク整備・管内4車線化の整備による高速道路機能強化・付加車線事業による円滑な交通確保
高速道路の修繕・災害復旧	<ul style="list-style-type: none">● 切迫する巨大地震・津波や激甚化する気象災害へのリスク軽減・災害時の速やかな高速道路機能回復のための耐震補強推進・常磐自動車道4車線化等によるリダンダンシーの強化 <ul style="list-style-type: none">● 交通安全の確保・逆走防止対策・暫定二車線区間の正面衝突事故防止対策
高速道路の特定更新	<ul style="list-style-type: none">● 環境保全の推進・高速道路ネットワーク整備による渋滞緩和効果に基づくCO2抑制・設備の省エネルギー化、盛土のり面の樹木形成等によるCO2削減・事業に伴うエネルギー・物質のリサイクル <ul style="list-style-type: none">● インフラの老朽化対策・高速道路リニューアルプロジェクトの推進・SMH(スマートメンテナンスハイウェイ)の実現と資産健全性の確保

- 対象プロジェクトにおける具体的な路線名、工事内容や進捗状況等については高速道路機構(※)との協定により決定されており、当社ウェブサイト等で確認可能

2 プロジェクトの評価と選定のプロセス

- 高速道路整備事業
 - 国が定める新規事業採択時評価実施要領に基づき、投資効率・費用対便益・事業の影響等を評価し、都道府県・政令指定都市や学識者等の意見を踏まえて事業採択
 - 事業採択後においても、国が定める評価要領に基づき、当社の設置する事業評価監視委員会にて再評価及び事後評価を実施し、事業の継続や中止、環境の影響を踏まえた必要措置等を判断
- 高速道路修繕事業
 - 道路法施行規則により5年に1回の頻度で目視による点検が義務付けられており、NEXCO3社（当社・中日本高速・西日本高速）による委員会での意思決定された点検実施基準等に基づく点検結果等を踏まえ、事業の評価・選定を実施

3 調達資金の管理

- 調達資金は、法令等に基づき道路管理事業やその他事業から区分された道路建設等事業に充当され、厳格に管理
- 調達資金の充当状況は、当社会計システムで管理。高速道路機構との協定に基づく収支予算の明細においても開示されており、年2回程度更新
- 調達資金は、原則調達年度内に対象プロジェクトに充当されるが、未充当資金は、社内規定に基づき1年以内の安全性の高い金融資産で運用

4 レポーティング

- 対象プロジェクトの進捗や資金充当状況は、当社及び高速道路機構ウェブサイトで公開。その他、当社業務全般や財務状況について、当社レポート等で公開

ソーシャル・ファイナンスによるSDGsへの貢献

- ソーシャル・ファイナンス・フレームワークに基づいた資金調達、国連の策定する持続可能な開発目標（SDGs）のうち「目標3：全ての人に健康と福祉を」、「目標8：働きがいも経済成長も」、「目標9：産業と技術革新の基盤をつくろう」、「目標11：住み続けられるまちづくりを」、「目標13：気候変動に具体的な対策を」の達成にも貢献



安全・安心・快適・便利な高速道路サービスの提供

- 安全を最優先にお客さまが安心して利用できる高速道路サービスの提供
- ✓ 高速道路リニューアルプロジェクトの推進
- ✓ SMHの実現と資産健全性の確保
- 防災・減災の強化
- ✓ 災害時の速やかな高速道路機能回復のための耐震補強推進
- ✓ 常磐自動車道4車線化によるリダンダンシーの強化
- 高速道路ネットワーク整備と高速道路を賢く使うための機能強化の着実な推進
- ✓ 首都圏の高速道路ネットワーク整備と地方部のミッシングリンク解消に向けた整備の推進
- ✓ 4車線化整備の推進による安全性、快適性の向上
- ✓ 高速道路機能強化のための追加ジャンクション・インターチェンジ(IC)・スマートIC、新規サービスエリア・パーキングエリアの整備
- 安全を最優先に、品質・コスト・生産性を追求し、維持管理しやすい高速道路づくり



交通安全の確保

- 逆走防止対策
- ✓ 高速道路本線への合流部におけるラバーポール設置
- ✓ 正しい進行方向を示す矢印路面標示・看板の設置、平面Y型ICの平面交差部の方向別カラー舗装
- 暫定二車線区間の正面衝突事故防止対策としてワイヤロープ設置



環境保全の推進

- CO2排出量の抑制・削減
- ✓ 高速道路ネットワーク整備による渋滞緩和効果に基づくCO2抑制
- ✓ トンネル内・道路上の照明を「LEDランプ」に変更、盛土のり面の樹木形成、調整池地盤支持における松杭使用等の資源活用によるCO2削減
- 事業により排出された建設副産物・廃棄物を可能な限り再生資源としてリサイクル